

第11回(2022年度)三島海雲学術賞の決定

公益財団法人 三島海雲記念財団(理事長 今関 博、所在地 東京都渋谷区)は、**第11回三島海雲学術賞の受賞者4名**を決定いたしましたので、お知らせいたします。本賞は、自然科学及び人文科学分野において、傑出した研究業績を有する優れた若手研究者(45歳未満)を顕彰する賞です。

贈呈式は7月8日に東京會館(東京都千代田区)で開催し、受賞者には賞状と副賞300万円が贈られます。

【自然科学分野】(食の科学)

	(受賞研究) 「味細胞種の多様性を産出する分子機構」
	おうもと まこと 應本 真 氏
	高崎健康福祉大学 健康福祉学部 健康栄養学科、講師
	岡山県出身 44歳

【自然科学分野】(食の科学)

	(受賞研究) 「ファイトケミカル感知と生体防御機構の分子基盤」
	すずき たかふみ 鈴木 隆史 氏
	東北大学大学院 医学系研究科、准教授
	愛知県出身 44歳

【自然科学分野】(食の科学)

	(受賞研究) 「新規機能解析技術を用いた嗜好味受容体 T1R の機能と食物成分との関わりの解明」
	とだ やすか 戸田 安香 氏
	明治大学 農学部 農芸化学科、特任講師
	埼玉県出身 39歳

【人文科学分野】(アジア地域の歴史・人文科学)

	(受賞著書) 『<客家空間>の生産一梅県における「原郷」創出の民族誌一』
	かわい ひろなお 河合 洋尚 氏
	東京都立大学 人文社会学部 社会人類学教室、准教授
	神奈川県出身 44歳

(所属、年齢は2022年4月1日現在)

財団創設者、「カルピス」生みの親 三島海雲について



1878年(明治11年)、現在の大阪府箕面市の寺に三島海雲は生まれました。西本願寺文学寮、仏教大学と学びを重ね、24歳で青雲の志を抱き中国大陸へ。後に仕事で訪れた内モンゴルの地にて、遊牧民の活力源とされる酸乳(発酵乳)に出合います。

1915年(大正4年)に帰国した後、内モンゴルでの体験をもとに、乳酸菌を活用した食品の事業化に取り組みます。そして1919年(大正8年)7月7日の七夕、日本初の乳酸菌飲料「カルピス」が発売されました。「カル」はカルシウム、「ピス」はおいしさを表すサンスクリット語から自身が命名。水玉のデザインは天の川をイメージしたものです。

三島海雲により「カルピス」は日本を代表する飲み物へと育てられました。長く経営の第一線にいた三島海雲でしたが、幾多の試練を乗り越えることができたのは、「私欲を忘れ公益に資する」「国利民福」に代表される独自の世界観と信念だったとも言えます。1962年(昭和37年)84歳のときに、「私が今日あるのは、先輩、友人、知己、さらには国民大衆の方々の惜しみないご声援によるところのものであると思った。したがって私の得られた財物は、ひとり三島海雲の私するものはない。あげて社会にお返しすべきものである。そして、お返しする方法として、財団を設立することが望ましい。」と考え、全私財を投じ三島海雲記念財団を設立いたしました。

<本件に関するお問合せ先>

公益財団法人 三島海雲記念財団

事務局 唐木田 陽一、青山 光夫

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 1-6-10 ジラッフアビル

Tel:03(5422)9898

e-mail:mishimak15@mishima-kaiun.or.jp

URL:<https://www.mishima-kaiun.or.jp>